



滋賀県版No. 344

2022・9・15

治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟
〒113-0034東京都文京区湯島2-4-4
平和と労働センター・
全労連会館

発行

滋賀県本部

〒520-0803

大津市竜が丘11-22-316

☎077-521-0884

柚口 延

8月は平和の大切さを改めて考える時

県本部副会長

滝すみ江

8月は原爆の日や終戦記念日があり、平和の大切さを改めて考える時ではないでしょうか。

私には戦争体験はありませんが、子どもの頃に父母からよく戦時中の話を聞きました。

父が船に乗ってニューギニアに出兵した時、一緒に出港した他の船が撃沈されたそうです。父は「その船に乗っていたら、死んでいった」と。父はニューギニアに行つてからマリヤにかかったそうです。もう死ぬのかと思つていた矢先、赤色だった尿が透明になったので、「助かったと思つた」そうです。

母は、子どもの時にお父さんを亡くし、お母さんが3人の子どもを女手一つで育てたのだそうです。

母は、3人姉弟の一番上で、「いつも下の妹弟の面倒や家の仕事をしなければならなかった」と。

「勉強が好きだったけど、貧しくて上の学校に行けなかった」と、残念そうに言っていました。母

は、犬を飼っていた知り合いが爆撃を受けて、可愛がつっていた犬と一緒に死んでいたことを話してくれました。東日本大震災で津波が

引いた後の町の様子を見て「戦争の時とそっくりだ。何も残っていない」という母の言葉が忘れられ

ません。

5年前の8月6日、私は初めて広島市の平和祈念式典に参加しました。すごい人でしたが、これだけ

の人が平和を願う行動をしているということが言えると思ひました。私の2人の子ども達も小学生

の時、子ども達を連れて青春18切符を使い普通列車で広島へ行き、広島平和記念資料館だけを見て日

帰りした思い出があります。今は結婚して子どもがいる私の2人の子ども達ですが、孫達に平和への



広島市平和公園の被爆
アオギリの前で滝さん

9月5日現在

会員 318人

(目標350人)

個人署名

349筆

(目標5,000筆)

団体署名17筆

(目標150筆)

メッセージを届けてほしいと思います。

全世界に戦争がなくなることを願うばかりです。平和を守ること、は、私達の次世代に対する責任だと思つて、日々活動しています。

8月15日終戦記念日

長浜駅前で反戦平和の訴え

湖北支部

長浜駅前午前11時から約1時間、マイクによる訴えとビラ配布を行いました。宣伝参加者は全部で11人でした(現共産党長浜市議会議員3人を含む)。

マイクによる訴えは議員の方々が行ってくれました。配布したビラは100枚ですが、街頭で手渡しできた分は残念ながら多めに見積もつてもその半分くらいでしょうか。実際、なかなか受け取ってくれません。残りは宣伝終了後、近くの住宅へポスティングしました。

私の出会い 2016年国賠同盟

台湾周遊平和連帯の旅の思い出(下)

湖北支部幹事 宮川 一男

二二八記念館(本省・台湾人が全土に事件を知らせた放送局跡)では、ボランティアガイドさんが日本植民地時代と国民党治白色テロの時代を話されました。1947年2月27日に国民党の兵士が本省人のたばこ売り婦人を殴打したことにより、抗議デモが全土に広がった。当時台湾は、日本の敗戦により、連合国から派遣された国民党軍が統治しており、その質の低さから、「犬(日本軍)が去って、豚(国民党軍)がきた(犬は忠実に統制が取れていたが、豚はすべてを食い尽くす)」と言われていました。多くの知識人・本省人が弾圧されました。国共内戦で敗れた蒋介石が逃避してきて、38年間の世界一長い戒厳令が布かれることになりました。今では政府が、犠牲者が3万人

ともいわれる事件を民主化運動だったと総括し、記念館・記念碑が建てられています。映画「非情城市」は白色テロ当時の有名な観光地の九份を舞台にしています。事件による日本人の犠牲者には、台湾政府による賠償が行われたとのことでした。

どこの国でも、政府が過去を反省・総括する努力を続けています。どこかの国の元首相は、いまだに「後世の歴史家が判断することだ」などと他人事のような発言をしています。誤った施策による犠牲者に対する補償・賠償・名誉回復は世界各地で行われています。

◆イギリス

2013年 ケニヤ反植民地運動弾圧に補償金決定

◆ドイツ

1956年 ナチス犠牲者に対して、連邦補償法制定

◆スペイン

2007年フランコ独裁犠牲者の名誉回復と補償「歴史の記憶法」制定

制定

◆イタリア 反ファシスト政治犯に終身年金支給

◆韓国 日本の植民地政策と戦った犠牲者に表彰・年金支給

◆カナダ 強制収容された日系人に補償

◆アメリカ 1988年「市民的自由法」制定 強制収容された日系人に補償と大統領の謝罪

◆チリ 1922年ピノチエト軍政下の弾圧犠牲者と家族に年金、子弟に奨学金

◆日本 治安維持法犠牲者に対して ????

この旅でお世話になった大阪府本部の故塩田一行さんのお誘いで、私もさやかな決意をさせていただき、「国賠」の一員にさせていただきました。塩田さんは維新による医療崩壊で、入院もできずに新型コロナウイルスに感染されて亡くなりました。

「黄色い署名集めだけやで」と誘われましたが、それすら十分に広えられていせんが。



8月15日 終戦日宣言

いま平和憲法の

値打ちが輝いている

大津支部が石山駅で宣言

大津支部は8月15日午後5時から石山駅デッキで、大津平和委員会、新婦人、新興吟詠会、原水協と共同で8・15終戦記念日宣言を行いました。総勢12人の参加でした。国賠ピラを60枚配布しました。

マイクで訴える西田清さん



草津で上映会

「わが青春つぎるとも」

200人を超える人場者

9月4日、草津市アマカホールで午前と午後の2回、映画「わが青春つぎるとも」伊藤千代子の生涯」が上映されました。入場者は200人を超えました。上映したのは、草津・栗東の平和委員会、国民救援会、新婦人、年金者組合などの実行委員会です。代表の近藤善さんにお聞きしたところ、何度も実行委員会を開き、上映会の準備をされてきました。

当日、国賠同盟会員が1人増え、国賠署名20筆集まりました。



草津アマカホール

治安維持法と滋賀県⑤

県本部副会長 西田 清

闘い続けた野崎 弥八さん

野崎弥八さん（以下、敬称略）は、1941年12月9日、対米英宣戦布告に伴う非常措置で非法グループとして検挙、拘留された。野崎の反戦行動を警戒してのことである。

野崎弥八は、滋賀県甲賀郡油日村大字油日で、父・嘉三郎、母トモの三男として1901（明治34）年7月16日に生まれた。父の死で母の再婚先石原健次郎に養われたが、尋常小学校三年修了の1912年、11歳で大阪に出た。どんな職業を経たかは仔細でないが、ブラシ工となつて25年5月、大阪一般労働者組合に加入、同年末執行委員となっている。そして西村アルミ、広瀬バケツ、小松刷毛、松本乾電池工場などの争議の支援活動に当たった。

1928年1月、野崎は労農党

に入党。3月には日本共産青年同盟に共鳴して、ビラ貼りなどに参加した。三・一五弾圧で検挙され、翌年2月1日、大阪地裁で懲役2年の判決を受けた。判決は野崎を共産党員と認定したが、彼は一貫して日本共産党への入党を否定、12月12日の二審でそれが認められ、無罪となった。

野崎はその後、全協系泉州労働者組合に加入。30年5月、岸和田紡績堺分工場争議の応援に駆けつけた。

岸和田紡績争議での野崎の活躍は、金賛汀『朝鮮人女工の歌』1930年・岸和田紡績争議』に述べられている。

岸和田紡績争議で労働者は賃金引き下げの撤回、昼食、夕食時の休憩を30分に、寄宿舎設備の改善など17項目を要求した。野崎は

「争議を見に行こう」という気分で山田六左衛門といっしょに堺に出かけたが、争議団では「応援に来てくれた」と受け止め、「それで帰ることもできんようになってしても、そこ（争議団本部）にへたりこんでしまいよってん」（野崎弥八談）となった。野崎は争議資金担当となり、関西の各地を闘争資金集めに奔走した。

争議は、警察の弾圧、暴力団の襲撃で敗北したが、この時、野崎は騒擾罪で検挙投獄され、33年に入獄した。そしてその年の10月、日本共産党に入党。34年7月24日、今里車庫解雇問題でのビラ配布で検挙、起訴され、投獄された。

しかし野崎弥八は屈せず、冒頭に述べたように太平洋戦争勃発に当たって「予防拘禁」されている。戦後も野崎弥八は活動を続けたが、1981年6月、78歳で死去した。

卒寿の思い『少年時代は、戦争だった』①

甲賀市 吉村 克之

私は、1932（昭和7）

年、大分市の繁華街にある薬局の長男として生まれました。今年の9月に卒寿（90歳）を迎えたところです。

小学校2年の1940年、神話による「神武即位」から2600年に当たるとして、「紀元二千六百年」の記念行事が、国を挙げて行われました。その一方で「大政翼賛（天皇の政治を讀えて補佐する）の名の下に、

弾圧下にあった共産党を除く各政党は統合され、婦人会、青少年団、同業団体から文化団体まで傘下に収め、国内限なく、町内会・部落会（隣組）に組織されます。これは「助け合い」を口実に、上意下達、共同行動、さらには異分子を監視する組織となり、戦争準備を進めたのです。

翌1941年12月、太平洋戦争

（当時の呼称で「大東亜戦争」）に突入しました。その日の朝礼で、校長先生の訓示に続いて、ひとりの教師が好戦的な短歌を披露したのを覚えています。翌1942年、小学校は「国民学校」と改称され、修身や歴史の皇国・軍国内容の強化、勤労奉仕の教科化、中学などに軍事教練の導入などの「改革」がなされました。

開戦初期は真珠湾、インドシナ、シンガポールと進撃を続けました。

42年始め、スマトラ島などを奇襲した「落下傘部隊」のニュース映画は、モノクロながら、無数の白い落下傘が一斉に開く場面は観客を熱狂させ、軍国歌謡「空の神兵」（梅木三郎作詞、高木東六作曲）は、従前の荘重な軍歌に無かった軽快で明るい、その限りでは名曲でした。このように文化の面でも、一流作家を動

員して、「国民精神動員」を推進したのです。東南アジアの資源を手に入れるのも、戦争の理由のひとつでしたが、私たちへの贈り物はクラスに数個のゴムまりだけでした。

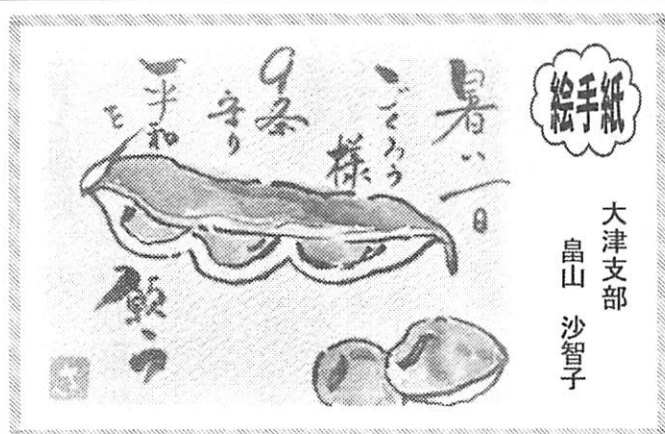
戦局は1942年6月のミッドウェイ海戦を境に敗退に転じます。米軍に占領されたミクロネシアを基地に、本土空襲が始まります。連日の空襲警報、学童疎開、家屋疎開（ぶちこわし）、防空訓練、果ては本土決戦に備えて竹槍訓練など隣組で行われます。3月に卒業式は空襲警報で中止となりました。

1945年3月、中学校の入学試験がありました。試験科目は、懸垂逆上がりと面接、運動が苦手な、吃音の私にとっては難関でしたが、奇跡が起きます。ナンブ、生涯唯一度の逆上がりに成功したのです。面接も名前を聞かれました。ただけでした、それで暗れて中学生になったのですが、授業があったのは、1カ月ほどで、その後勤労動員に従事させられました。爆

撃された軍用飛行場の滑走路を補修するための砂利を河原で採取するのが主な仕事でした。それも大きな篩（ふるい）で振り分けたり、シャベルでトラックに積み込んだりするのはすべて人力でした。休日は2週に1日。米軍機の機銃掃射を受けて、危機一髪で藪に逃げ込んだこともあります。

家では、裏庭に防空壕を掘りました。裏隣のカトリック教会の若い人が手伝ってくれた、というより神父の力の方が主力でした。夜は着衣のまま横になり、警報で起こされて、防空壕に避難する毎日でした。

7月16日、西隣のSさんの別荘に家族で宿泊することになりました。夜半に警報で防空壕に避難しましたが、激しい空爆が感じられました。爆音が収まったので外に出ると、我が家の方向が焼炎で明るくなっていました。訪ねてきた神父に聞くと、我が家もSさんの店も教会も全焼とのことでした。やがて警防団（消防団）員の父も顔を見せ、無事を喜び合いました。ちなみに神父様は、



大津支部

島山 沙智子

不屈と私のおもい

大津支部 島山 沙智子

イタリア人の主祭とドイツに支配されていたスロバキア出身の若い神父で、戦争初期には同盟国人として厚遇されていました。独・伊の敗戦後は当局の警戒が厳しくなり、ある日父が憲兵隊に一日中呼ばれたことがあります。今、推察すると父は憲兵隊から神父たちの監視を命じられたのだらうと思います。(つづく)

「未完の敗戦」山崎雅弘

(集英社新書)を読んで

故藤崎さん、現在、古谷道代さん、毎月の様に仲睦まじく、不屈ができましたよと我が家に届けてくださいました。あのころを夢にまで見ます。私と不屈は、初めは何てむづかしい事ばかりと思い、ひとつひとつの言葉にすぐく、意味のあることがいっぱい書いてあり、一回では読めなくても、ページづつ読んでいくうちに、これは昔こういう風なことがあり、ひとりの人間が殺されたりして心が痛みました。

なぜ伊藤千代子や小林多喜二、金子文子など、あんなひどい目に遭わないといけないのか不屈を読んで勉強になりました。私にとつて不屈はなくてはならないものに虜になりました。

近年の日本社会でなぜ一人ひとりの命が尊重されないのか疑問を抱いていたが、この本を読んで心のモヤモヤが晴れた。それは、大日本帝国の「敗戦」が完結されずに、大日本帝国型の精神文化が生き延びて、現在の日本社会でも生き続けているためである。

では大日本帝国型の精神文化とは何か。重要な特徴のひとつは、国民一人ひとりの人権を全く大事にしないことだ。特攻や玉砕戦法、慰安婦制度を見れば明らかである。

昨年の夏の東京五輪・パラリンピックの開催は、「戦前の大日本帝国」の問題点が今なお存在していることを可視化した。当時の菅首相は、医療専門家から緊急事態宣言下の五輪開催はリスクが大きすぎると批判が寄せられていたが、自らの野心に政権基盤の強化と財界の要請(利権)を優先して

強行開催にこだわった。兵站(物理的裏づけ)の軽視、希望的観測への傾倒、中止決断の先送り、何よりも人命軽視。これは戦前の日本軍と共通するではないか。ネットでは東京五輪を「東京インパール」という言葉で呼び表す投稿が多かったそう。

著者は大日本帝国の「敗戦」を完結しなければ本物の民主主義国にならないという。日本人は、敗戦によってGHQから与えられた「民主主義」を育てる努力を怠ってきたのではないかと述べ、本来ならGHQの占領統治下にあるうちになされるべきであった「敗戦の完結」をいまの我々の世代でやり遂げなければならないと強調している。それは日本国憲法の理念である「国民主権」「平和主義」「基本的人権の尊重」の実現だと考える。そして民主主義の根を弱らせる「大日本帝国の精神文化」に注意を払い、過小評価せず取り除くことが必要だろう。まずは最近目に付く憲法への攻撃に対し、しっかりと反撃しよう。

(袖口 延)

滋賀と朝鮮 78

彦根市城東小学校②

河かおる

「不屈」を見て8月14日の映画「金福童」の上映会に来て下さったという方がたくさんおられました。ありがとうございます！考えてみれば、金福童さんもまさに「不屈」の人です。映画では韓国の若者が金福童さんの不屈の意志を受け継いでいる様子が描かれていましたが、当日夜の別の団体のオンライン集会で、仁藤夢乃さんや希望のタネ基金で活動する日本の若者が口々に金福童さんとの想い出を語るのをきいて、日本でも受け継がれているんだなあと感動しました。

さて今回は、彦根市城東小学校に民族学級が設置され、大津同様に教育闘争が行われたということまで書きました。今回はその続きです。主な参考文献は、稲継靖之「戦後の滋賀県公立学校内の民族

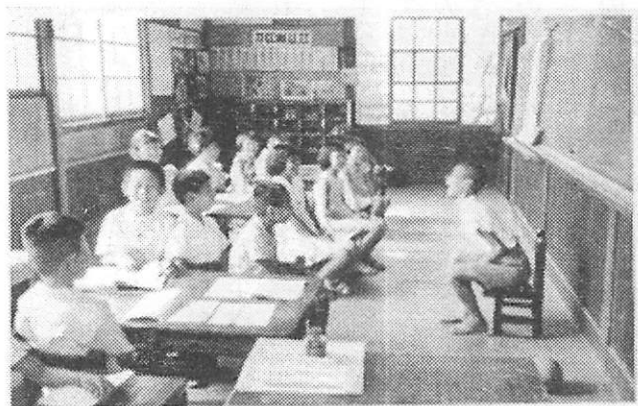
学級について」『人間文化』19(2006年4月)です。

城東小学校の民族学級は、米原小学校と醒井小学校に同様に設置された民族学級とあわせて、「湖北朝鮮初級学校」を構成するという形をとっていました。従って、民族学級に在籍していた朝鮮人の児童は、城東小学校の成績証や卒業証と、湖北朝鮮初級学校の成績証や卒業証の両方をもらっていました。学芸会や卒業式などの学校行事も両方であったようです。ある方の成績証の写しを見せていただいたことがあります。教科は朝鮮語(国語)だけでなく、算数、自然、歴史、地理、体育、音楽、図画、品行などの成績が5段階で記入されていました。

1961年に城東小を卒業された梁幸造さんの証言では、「城東

小の場合は、最初日本の学校の授業を2時間受けて、その後昼まで2時間民族学級へ行って、終わった後には日本の学級へ給食を食べに行つて、午後にもまた2時間民族学級の授業に行っていた」とのことです(稲継前掲論文)。つまり城東小では、当時一般的だった放課後の課外授業ではなく、全日制方式で通常の時間帯に民族教育が行われていたようです。おそらくこれは全国的にも、県内においても、稀なケースです。写真は、城東小学校の民族学級と推測される写真です。奥の壁にはハンガルの掲示がしてあり、皆とても楽しそうです。

1960年に近江八幡市に滋賀朝鮮中級学校が設立され、1963年4月から大津市に移転して滋賀朝鮮初中級学校が設立されると、朝鮮人の民族教育は徐々に大津の学校に一本化されていきましたが、城東小学校の民族学級は、1969年度まで存続していました。その間の大きな出来事として



城東小学校の民族学級と

推定される写真(時期不明)

(滋賀朝鮮初級学校提供)

帰国運動・帰還事業があります。

これについては別途書く予定ですが、簡単に言うと、1959年12月より在日朝鮮人の朝鮮民主主義人民共和国へ「帰国」事業が始まって、日本全国から延べ9万人以上の在日朝鮮人が「帰国」したことを指します。「帰国」に「

」を付けるのは、「帰国」した人の多くが日本で生まれ育った人だったからです。朝鮮で生まれた人であっても、故郷は38度線以南の人ばかりでした。

滋賀県からも多くの朝鮮人が「帰国」します。彦根市から何人が「帰国」したかの記録は見つかっていませんが、『滋賀県統計書』の各年の彦根市の朝鮮人人口を見ると、1960年3月に421人だったのが、1960年12月には362人、1961年12月には279人になっています。もちろん死亡や他の自治体への転出もあるでしょうが、2年足らずで約3割(約140人)が減っている

のは、「帰国」の影響であることは間違いありません。この中にはもちろん、城東小学校に在籍していた朝鮮人児童も多く含まれていました。おそらく、読者の皆さんの中にも、「同級生が帰国した」という記憶をお持ちの方も多いのではないのでしょうか。

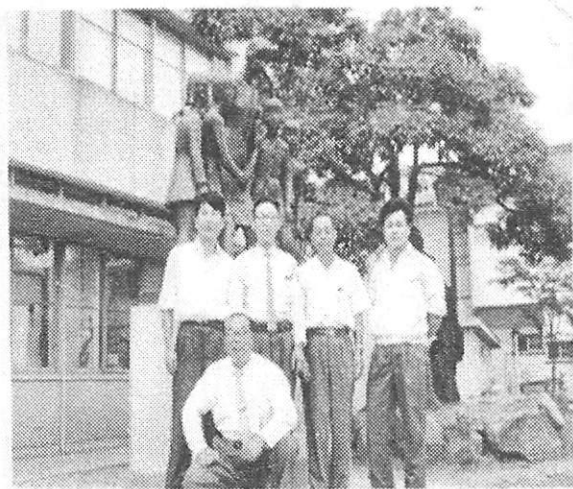
この時、「帰国」する彦根在住の朝鮮人たちが記念に寄贈した銅像が今も城東小学校に残っています。1961年7月22日に序幕した「平和の誓」像です(写真)。開校100

周年を記念して発行された『城東小沿革史』(1986年)には、写真入りの年表で「この像は、当時城東にあった朝鮮学級に学び、朝鮮民主主義人民共和国へ帰国される人々が、記念に建てたものである。作者は、滋賀大学教授伊室重孝氏であった」と紹介されています。

像の中央には女性の先生がいて、右側に朝鮮人児童、左側に日本人児童が肩を組み合い、手を取り合っている像です。先生の隣の朝鮮人の女

子児童は、チマ・チョゴリを着ています。朝鮮人はどんな思いで「平和」と名の付いたこのような像を贈ったのでしょうか。

同様の銅像は米原小学校にも寄贈されていて、米原小学校にはまた別途書きます。いずれにしても、このような銅像があるのは日本全国でこの2校だけで、大変貴重なものです。次回は、この像のその後の話を中心に書きたいと思っています。



彦根市城東小学校「平和の誓」像除幕式の写真
(1961年) (滋賀朝鮮初級学校提供)

第31回全国女性交流集会の

お知らせ

◆日程

11月6日(日)、7日(月)

◆場所

静岡県熱海市
ホテルニューシティ湯河原

詳しくは、不屈10月号でご案内いたします。

自衛隊基地内での「基地祭」の開催を求め、公費による自衛隊基地祭の中止を求める運動について

高島支部 木津 清司

高島市は、航空自衛隊饗庭野分屯基地創立50周年、陸上自衛隊今津駐屯地創立70周年を記念した事業「自衛隊フェスタ50・70in滋賀高島」と銘打って防衛省にブルーインパールの飛行を目玉事業として要請していたもの。そもそも航空自衛隊のブルーインパルス曲技飛行は、航空自衛隊の広報活動を主な任務とするものを高島市が要請すること自体が間違いであることは明らかです。

4月2日、防衛省幕僚監部発表でブルーインパルス6機による飛行展示が発表されるや4月15日、19日に3回の準備会を開催、4月20日の臨時市議会での補助金780万円を上程し賛成多数で可決しました。4月25日には「自衛隊

フェスタ50・70in滋賀高島」の第1回実行委員会を開催。記念式典やイベントでの973万円の事業予算を決めました。

これに対し、あいは野平和連絡会の高島平和委員会を中心に新婦人高島支部、高島九条の会、戦争法の廃止を求める高島の会による「ブルーインパルス飛行展示と市が主催する自衛隊基地祭の開催中止を求める」要請を5月6日、高島市に行いました。市側は、「まだ詳しい中身が分からないので5月25日の実行委員会後に詳しい説明をさせてもらう」ということで交渉日は5月30日になりました。

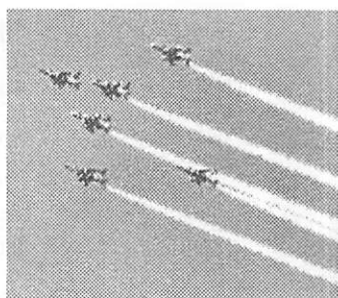
その後、市のホームページに詳細な記念事業の内容が明るみになり、問題の多いことが判明しました。そこであいは野連は緊急に2回の「公費による自衛隊基地祭の中止を求める要請」を7月29日に高島市に行いました。

◆問題点① 自衛隊の基地祭を高島市がお金（780万円）、場所（運動公園、市民会館）、広報、そして市職員（300人）の

労務提供までするのか。

◆問題点② 新型コロナウィルス第7波が猛威を振るっているときに（8月2日は1000人超え）市民や内外の参加者3万人の集客事業は大丈夫なのか（実際の当日参加者は1万人）。

◆問題点③ 市民会館での記念事業・自衛隊の音楽祭に600人の入場者を予定しているが、参加市議会議員が「収容予定人数が多すぎないか、コロナ対策が十分できるのか疑問に思っている」と言います。



「ブルーインパルス」のアクロバット飛行（8月7日）

そもそも先の大戦で自治体が国の指導にのって地域住民や若者を戦場に送っていたことから、戦後の憲法・自治法では国の言いなりに戦争に加担することのないように自治体

の権限を強めました。ところが2015年の戦争法強行採決以降、防衛省から自治体への協力要請が強まってきたのです。自衛隊員募集の「適齢者名簿提出」が良い例です。県内では2自治体が「名簿の提出」を行っており高島市はその1自治体となっています。

また自衛隊員がアメリカの戦争に追隨して海外の戦争に参加。敵基地攻撃の事態の強まり、自衛隊員が殺し殺されることから自衛隊員の生命を守ることを、自衛隊員の生活を守ることが基地を抱える高島市の責任ではないでしょうか。あいは野連では7月29日以降、連日街宣車2台で市内をめぐり「公費負担による自衛隊基地祭の中止」を市民に訴えました。8月3日には県平和委員会も参加し、平和堂・津店前でのスタンディング宣伝も行いました。

「基地祭」は予定通りに開催されましたが、「公費を使つての自衛隊基地祭は駄目だろう」「当日の今津地域の交通は麻痺した」「ブルーインパルスの騒音にはびっくり」との声が寄せられました。